

「オラフ」は近くにいなくてもいい



3年生は橘高校を卒業し、1・2年生は新型コロナウイルスの流行による休業で、慣れ親しんだクラスでの生活が突然終わることになりました。3年生や進路変更をする1・2年生は、新しい場所へ踏み出すのは、楽しみだけではなく不安もあることでしょう。



さて、去年の12月の性教育講演会の中でわたしは、「あなたには、オラフはいますか？」という問いかけをしました。

「オラフ」というのはディズニー映画 アナと雪の女王に出てくる雪だるまの名前ですが、このオラフのように、家族でも恋人でなくても(人間でなくても)自分を支えてくれる人や自分を励ましてくれる夢や目標があると、人は強くなれるからです。

6年前に公開されたアナと雪の女王の1作目では、オラフはアナのそばに寄り添い一番のピンチにかけつけ、アナの命を助けるために自分を犠牲にしようとしていました。その姿を見てアナは真実の愛を知り、大切な人たちと心がつながり、楽しく幸せに暮らしました…というハッピーエンドで終わりました。



そして去年11月に公開されたアナと雪の女王 2では(ネタバレになるので詳しくは書きませんが)

アナは再び姉のエルサと離れ、いつも一緒にいてくれたオラフもいなくなり、暗闇の中でひとりぼっちになります。性教育講演会で、傷つきの怖がって閉じこもっているのではなく、「ドア」を開けて「外」に出ようと話をしましたが、「外」に出れば傷つくことがあるかもしれません。または2作目のアナのように、せっかく出会った大切な人たちと離れ離れになることもあるかもしれません。時には大切な人たちを、失うこともあるかもしれません。

「どうせ失うなら、最初からいないほうがいい」「傷つけられるくらいならひとりのほうがましだ」と思う人もいられるかもしれませんが、同じひとりぼっちでも1作目のアナと2作目のアナはまったく違いました。



1作目のアナは、ただじっとドアの前でお姉ちゃんが出てきてくれるのを待っていただけでしたが、2作目のアナは自分の足で進み始めます。

「もうなにかも終わり つらい 悲しい 無理」と最初は打ちひしがれて動けなかったのに、「どんなときも進め」という心の声に励まされて歩き出します。

「できることをやろう ひとりでも進もう 一歩ずつ進もう 目の前の道だけ見て歩いていく

やろう 今できることを…(アナと雪の女王 2 挿入歌 わたしにできること より)」

そして歩き出した先に「自分のやるべきこと」を見つけ、ふつうなら絶対にできないと思う大きな課題に挑み、最後にはいろいろな人の助けを得て、やるべきことをやりとげてひとり立ちしていきます。ひとりぼっちではなく、ひとり立ち、自立です。



小さな子どもは、最初は親から離れることができませんが、養育者(親や、それに代わる人)としっかりと信頼関係ができてくると、養育者から離れて友だちと遊ぶことができるようになります。それがもっと成長すると、養育者の姿が見えなくても、幼稚園や保育園、学校で過ごすことができます。それは養育者との信頼関係が「心の安全基地」になって、目の前にその人がいなくても、安心していられるからです。アナもしっかりと姉のエルサ、雪だるまのオラフ、恋人のクリストフとの信頼関係がしっかりとできたことで、その存在が心の安全基地になり、心のつながりが心の声となって一人ぼっちになっても前に進むことができたのだと思います。



社会に出ると、自分を支えてくれる人、自分が信頼できる人がいつもそばにいるとは限りません。お互い忙しくて何年も会えないことさえあります。でも今は SNS で連絡を取ることも簡単だし、たとえ連絡を取り合わなくても、きっとあの人ならこう言うだろうとか、あの人ならこうするだろうとか、きっとあの人もがんばっているに違いないとか、そう思うこと自体があなたの心の声になったり、あなたの勇気になったりするものです。

もしそれが「人」ではなく、「なりたい自分の姿」だったり、「自分の夢」や「目標」だったとしても、そうなるためには自分はどうすべきだろうか、それをかなえるためには自分は何ができるだろうかと考えることが、同じように心の声、あなたの勇気になるのです。

3年生は卒業すれば、目の前にいる橘高校の生徒や先生は目の前からいなくなります。また1・2年生で進路変更をする人も同じです。たとえ進級しても、仲の良かった友だちや、好きだった先生と離れるかもしれないから学校をやめたい」という相談が保健室に持ち込まれます。今まで自分を支えてくれた、いつでもそばにいてくれた友だちや先生が目の前からいなくなり、「ひとり」になってしまったとき、「もう何もかも終わり 無理」と、うつむいてあきらめてしまうかもしれません。でもそんな人にはわたしが、心の声の代わりにエールを送ります。



「どんなときも進め できることをやろう ひとりでも進もう 一歩ずつ進もう 目の前の課題だけ見て歩いていく 今できることをやろう」

1作目のアナと雪の女王は、ドアを開けて「つながること」で幸せになりました。

でも2作目のアナと雪の女王は、自立することで、ひとり立ちすることで幸せになったお話だと思うのです。たとえあなたが、卒業や進路変更、クラス替えによって、身近にいた「オラフ」と離れたとしても、そのことで暗い気持ちになって座り込むことがあっても、本当にその友だちや大切な人や夢、目標が心の中にしっかりとあるなら、あなたには立ち上がって前に進む力があるはずですよ。

あとは、1歩踏み出す勇気があれば大丈夫です。

3年生や進路変更する1・2年生は新しい場所で、どこからどうがんばっていけばいいのかわからなかったら、まずはこの橘高校でがんばった日々を思い出してください。そして保護者や会社の人、進学先の先生に勇気を出して相談してみてください。1・2年生はクラス替えで困ってしまったら、保護者や先生、仲の良い友だち、保健室に相談してみてください。ただ、1歩歩き出すのか…やるかやらないか、がんばるかがんばらないかは、あなた自身が決めることです。



アナのように、暗闇の世界から光を、夜明けを見るために、今できることから始めましょう。

保健室ではいつもあなたを応援しています。